

効果的なブレンディッドスクーリングを目指して —昨年度の試行結果を踏まえて—

田畑 忍、 守屋誠司、 魚崎祐子
Email: tabata@edu.tamagawa.ac.jp

玉川大学教育学部教育学科通信教育課程

◎Key Words ブレンディッドスクーリング、通信教育、グループ学修、相互評価

1. はじめに

玉川大学通信教育課程では、印刷教材等による授業（以下、テキスト学修）と面接授業を行っている。筆者らは昨年度、メディアを利用して行う授業（以下、メディア授業）と面接授業を組み合わせたブレンディッドスクーリングを通信教育課程で試行し、その結果について報告した⁽¹⁾。昨年度の試行では、最終試験やアンケート調査等の結果から、その効果のある程度確認することができた。しかしながら、「学修課題一覧表の提供」「メディア授業時の質問対応」「遠隔によるグループ学修時の指示」「面接授業時の学修内容」等で改善すべき点も確認できた。筆者の一人は昨年度に引き続き、今年度は7月と11月にブレンディッドスクーリングを実施する。本年度のブレンディッドスクーリングでは、上記の点等について改善を行う。また、筆者の一人が担当するブレンディッドスクーリングでは、学生による相互評価を面接授業で行っている。今年度は、評価基準を提示する時期や評価項目等を変更する。本稿では、改善点等について記述し、結果については発表時に報告する。

2. スクーリングについて

玉川大学通信教育課程では、1日500分×3日で実施する地方スクーリング、1日300or400分×4日で実施する春期・土日スクーリング、1日250分×6日で実施する夏期スクーリング等がある。テキスト学修が中心である通信教育課程の学生にとって、スクーリングで他の学生と一緒に学修する機会は貴重であり、多くの学生がスクーリングでの学修を肯定的に捉えている⁽²⁾。夏期スクーリングは開講科目数も多く、多くの学生が受講している。しかしながら、地方の学生にとっては、旅費やスクーリング期間中の滞在費等が負担となる。また、連続で実施する地方スクーリング等では、学修内容を振り返ったり、課題を作成したりする時間を確保するのが難しいという課題がある。

3. ブレンディッドスクーリングについて

ブレンディッドスクーリング全15回のうち、メディア授業は7回分、面接授業は8回分（土日連続の2日）である。1日目は10:50（通常のスクーリングの2時限）から授業を開始し、18:50（通常のスクーリングの5時限）までの4コマ、2日目は9:00（通常のスクーリングの1時限）から17:00（通常のスクーリングの4時限）

までの4コマの時間割で実施する。1日目の開始時間が遅いのは、地方の学生ができる限り前泊をせずに受講できるようにするためである。

メディア授業における授業動画の視聴期間は1か月間である。各回の授業動画の学修内容をまとめた「振り返りシート」をもとに、文字でコメントし合うグループ学修も行う。グループ学修の期間は1週間である。定員については40名としている。通常のスクーリングでは100名近い授業もあるが、現在は試行段階でもあるため40名としている。今年度7月に実施するブレンディッドスクーリングの受講希望については執筆時点ですでに締め切られており、70名近くが希望し、45名に受講許可を出している。定員より多く受講許可を出しているのは、スクーリングでは受講取り消しが1割程度出ることが多いためである。なお、今年度は筆者の一人が担当する授業の他、2科目でブレンディッドスクーリングを実施する。また、来年度の実施を目指して、新たに2科目で授業動画の撮影を予定している。

ブレンディッドスクーリングには、「メディア授業の期間中、自身のペースで学修することができる」「授業動画を繰り返し視聴することができる」「理解が不十分な個所の質問がしやすい」「メディア授業で学修した基礎的内容を基に、面接授業で理解を深める学修ができる」「面接授業の期間が短いので宿泊費等の負担が減る」等のメリットがある。

4. 昨年度の試行から見た課題

昨年度の試行では、最終試験やアンケート調査等の結果から、ブレンディッドスクーリングの効果のある程度確認することができた。しかしながら、遠隔によるグループ学修では、グループ学修で利用する「振り返りシート」の投稿日を明確に示さなかったために、あるグループではメンバーへのコメントが面接授業の前日になってしまうことがあった。また、「振り返りシート」をpdfで投稿するように指示していなかったため、一部の「振り返りシート」が開けないということもあった。その他、「対面授業のワーク内容」「メディア授業の視聴期間（期限）」「事後学修」等の名称「学修課題一覧表の提供」「メディア授業時の質問対応」等で検討すべき課題が確認できた。

5. 課題を改善するために

昨年度の試行を踏まえ、より効果的なブレンディッ

ドスクーリングを実施するために改善を行った。以下では、実施予定を含め、その一部を説明する。

5.1 学修課題一覧表の提供

筆者の一人が担当するブレンディッドスクーリングのメディア授業では、学修内容を説明している「授業動画」と、テキストのチェックやレポート作成等を指示している「授業動画視聴後の学修」動画をセットで提供している。これらは内容により、メディア授業の各回で1セットの場合もあるし、2セットの場合もある。例えば、第4回では図1に示す通り、2セットの動画を提供しているが、第5・6回では1セットの提供となっている。学修課題については、「授業動画視聴後の学修」動画でも「授業動画」でも指示している。そのため、昨年度のアンケート調査では、一覧表があれば、最終確認しやすいという意見があった。そこで、今年度より、図2に示す学修課題一覧表を提供することとした。

回数	評価	2018-06-11~2018-08-31
(5) 第4回	授業動画 (4-1)	未学習 (/-)
	授業動画視聴後の学修 (4-1)	未学習 (/-)
	授業動画 (4-2)	未学習 (/-)
	授業動画視聴後の学修 (4-2)	未学習 (/-)
(6) 第5回	学習指導案	2018-06-11~2018-08-31
	授業動画 (5)	未学習 (/-)
	授業動画視聴後の学修 (5)	未学習 (/-)
	資料 (学習指導案の見本1)	未学習 (/-)
	資料 (学習指導案の見本2)	未学習 (/-)
	資料 (学習指導案の見本3)	未学習 (/-)
(7) 第6回	学習と個人差	2018-06-11~2018-08-31
	授業動画 (6)	未学習 (/-)
	授業動画視聴後の学修 (6)	未学習 (/-)

図1 各回の学習課題の例

教育の方法と技術／教育の方法と技術(幼・小)		実施チェック	備考
自己紹介・授業の進め方	自己紹介動画：3分		
学修の進め方動画	学修の進め方動画：3分		
第1回	○○○○○		
1-1	授業動画：1分51秒		
1-2	授業動画(授業動画視聴後の学修の取組)：3分9秒		
1-3	授業動画：9分26秒		
1-4	授業動画(授業動画視聴後の学修の取組)：3分49秒		
●	授業動画視聴後の学修(テキストチェック)		
●	授業動画視聴後の学修(振り返りシートの記入)		
●	授業動画視聴後の学修(レポート作成：「なぜ勉強しなければならないの」に対する回答の作成)		
●	※作成したものを1紙プリントアウトして授業机に持ってくる		
●	授業動画視聴後の学修(名札の作成)		
第2回	インストラクショナルデザイン		
2-1	授業動画(授業動画視聴後の学修の取組)：3分6秒		
2-2	授業動画：9分15秒		
2-3	授業動画(授業動画視聴後の学修の取組)：3分8秒		
●	授業動画視聴後の学修(テキストチェック)		
●	授業動画視聴後の学修(振り返りシートの記入)		
第3回	グループ学習の基礎		
3-1	授業動画：1分51秒		
3-2	授業動画(授業動画視聴後の学修の取組)：1分1秒		
3-3	授業動画：2分31秒		
3-4	授業動画(授業動画視聴後の学修の取組)：1分6秒		
●	授業動画視聴後の学修(振り返りシートの記入)		
●	授業動画視聴後の学修(名札の作成)		

図2 学修課題一覧表

5.2 進捗に応じた介入

昨年度の試行では、メディア授業の視聴実態を確認したいと考え、各学生の学修状況を把握しながら、学修の進捗に応じた個別の介入はしなかった。そのため、「メディア授業の視聴期間が始まっていたことを忘れていたため、焦って学修を始めた」「(遠隔によるグループ学修のための)振り返りシートの登録がギリギリになってしまった」といった学生がいた。メディア授業の学修が遅れたり、一度に進めたりした学生の中には、最終試験の結果が低い学生が少なからずいた。そこで今年度は、学修の進捗に応じて個別にメール等で連絡をすることとした。また、全体的な進捗状況を、受講生全員が見ることのできる掲示板で定期的に連絡することにした。これにより、進捗の遅い学生らに対して、

学修を促すことができるようになると思われる。

5.3 質問と回答

本学のLMSでは、学生が教職員に直接質問した場合、質問が学生よりされた旨の連絡がシステムから来るようになっていない。そのため、昨年度の試行では、質問に対する回答が遅くなるがあった。そこで今年度は、土日を除く毎日、LMSの質問欄をチェックし、できるだけ早く回答することとした。また、必要に応じて、質問された内容と回答を受講生全員が共有できるように、掲示板を利用して周知することとした。なお、土日にした質問については、回答が月曜日になる可能性があることを学生に周知することで、混乱を避けるようにする。昨年度は掲示板を利用して、学生間で疑問等の解消を行うケースが見られた。これについては今年度も利用可能とする予定だが、基本的には教職員が回答することにより、間違いが起こらないようにする。

5.4 評価基準の提示

授業シラバスでは、授業全体の到達目標を示しているが、それぞれのグループ学修での到達目標は示していない。筆者の一人が担当するブレンディッドスクーリングでは、メディア授業では「振り返りシート」をもとにした遠隔によるグループ学修、面接授業では2つのグループ学修を実施する。面接授業のグループ学修では、その成果物を発表し、学生間で相互評価を行う。教員も一定の基準で各成果物を評価している。そこで、面接授業のグループ学修では、評価基準として相互評価表をグループ学修中に配布することとした。これにより、学生は、グループ学修で作成する成果物の評価基準を事前に知ることができ、その基準をクリアできる成果物の作成を目指すことになる。なお、評価基準については各評価項目について5段階で評価するものとした。また、学生が相互評価する際には、各項目の評価の他に、自由記述でコメントできるようにした。評価基準をグループ学修中に提示することにより、グループ学修で学生が作成するものの質を高めることを目指す。

6. おわりに

昨年度の試行を踏まえ、今年度は「5. 課題を改善するために」に示した点等について改善をする。結果については発表時に報告する。

本稿には示していないが、昨年度は「コメントシート」と説明したものを今年度は「振り返りシート」と変更する等したため、授業動画の一部撮り直したりした。また、昨年度の授業動画で資料として提示したものの最新版の情報を補足説明したりした。これらはメディア授業を実践する際の課題と聞いていたが、筆者らはそれを今、身をもって体験している。

参考

- (1) 田畑忍、他「通信教育課程におけるブレンディッドスクーリングの試行結果—学習内容の理解と学修への積極的な取り組みを目指した試行の結果—」、コンピュータ&エデュケーション Vol.43、2017年、pp.30-35
- (2) 玉川大学通信教育部 調査・企画検討会「平成26年度玉川大学通信教育部学生アンケート報告」、2015年